

松本良順 (まつもと りょうじゅん)

天保3年(1832)6月 江戸麻布(現・東京都港区)に生まれる。

幼名は佐藤順之助。後に幕医の松本良甫の養子となる。

父は佐倉藩藩医で順天堂を営む佐藤泰然。

オランダ軍医のポンペ・ファン・メーデルフォールトに医学等の蘭学を学ぶ。
会津藩の下で京都の治安維持のために活動していた新撰組の局長である近藤勇とも親交があり、隊士の診療も行う。

慶應4年(1868)戊辰戦争では歩兵頭格医師として幕府陸軍の軍医、次いで奥羽列藩同盟軍の軍医となり、会津戦争後、仙台にて降伏した。戦後一時投獄されるが赦免され、出獄後に山縣有朋などの薦めで初代日本帝国陸軍軍医総監となる。

明治4年(1871)に従五位に叙せられた後、松本順と名乗った。号は蘭疇、楽痴。(赤字削除、年代順に並べた)

明治10年(1877)11月に弟子佐藤尚中と共に資生堂に売薬方を授与する。

長野県湯田中温泉において、温泉入浴法を示し、湯田中温泉を長寿の湯と褒め称えた。

湯田中大湯には、現在も当時の温泉入浴法が掲げられている。

神奈川県大磯町を海水浴が最適な別荘地として開発し、海水浴の普及も行う。

明治40年(1907)3月12日死(逝)去。享年75。(逝去にする)

佐藤尚中 (さとう たかなか)

文政11年(1828)4月、下総國小見川(現・千葉県香取市)に生まれる。

幼名は竜太郎、号を舜海。

父は小見川藩の医師山口甫僊。

天保13年(1842)江戸四谷の医者、安藤文沢に蘭方医学を学ぶ。

文沢の勧めで和田泰然(後の佐藤泰然)の「和田塾」に入門。

嘉永6年(1853)佐藤泰然の養子になる。

万延元年(1860)長崎に留学。オランダ軍医のポンペ・ファン・メーデルフォールトに医学を学ぶ。

慶應3年(1867)佐倉藩に「佐倉養生所」開設。

慶應4年(1868)戊辰戦争のため閉鎖。その後明治政府の要請により大学東校(現、東京大学医学部)に勤め、大博士となる。

明治6年(1873)私立の「順天堂医院」開設。

明治10年(1877)11月、師松本良順と共に資生堂に売薬方「神薬」と「清邪散」の二処方方を伝授する。

明治15年(1882)7月23日逝去。享年54。